

◆涙もろい人情派

人の痛みを自分のこととしてとらえ、一緒に涙する人情派。トータルサポートを推進する福祉の専門家です。

義幸は小さいときから母親思いの子どもでした。大好きだった母親が病気がちであったこともあり、人の痛みを本当に自分のことのように考える子でした。福祉の大切さ、命の重さを本当に分かる政治家になったことを喜んでいますが。難病で苦しんだ末に若くして亡くなった母親（私の姉）も、天国から栃木市長の活躍を見守っていると思います。



鹿沼市在住 叔母

◆意外と頑固な改革派

正しいと信じたことは、頑固に最後までやり遂げます。行政改革、市町合併を頑固に全力で取り組んできました。

市町合併をやり遂げたことは賞賛に値します。合併に関していろいろと意見がありますが、頑固ともいえる熱い思いを持った日向野市長だからできたことだと思います。次は下都賀病院の再建問題です。地域医療に関してもしっかりとしたビジョンを持っていく。日向野市長なら必ずこの難題を解決し、市民の期待に応えてくれると思います。医師としても大いに期待しています。



万町在住 医師

ひがの義幸はこんな人

◆笑顔がかわいい子煩悩

何よりも元気な子供の笑顔が大好きです。将来を担う子どもの笑顔のため、生きる力をはぐくむ教育を推進してきました。

市長さんは、ご自分のお子さんやお孫さんを目の中に入れても痛くないほどに可愛がっており、普通の親ばかだなーと日頃から見えています。運動会や卒業式などでは、満面の笑みを浮かべたかと思うと、涙を流して顔をくしゃくしゃにしています。「栃木市の大切な宝である子どもたちに借金を残すわけにはいかない」といつも市長さんと言っていますが、本当にそのとおりだと思います。



泉川町在住 主婦

◆ちょっと短気な実行派

決めたことはすぐに実行することを信条としてきました。市長として取り組んだ事項は、6年間で100を超えました。

日向野市長の下、退職までの5年間市役所に勤務しました。市長就任当初には、矢継ぎ早に出される新しい施策に職員がついていけない時もあり、そんな状況に立腹する場面もあつたり、考え方の違いで激しく議論したりしたこともありましたが、市のため、子どもたちのためと、市長は多くの行政改革を断行しました。私が退職するときには、市役所の雰囲気も大分変わってきました。

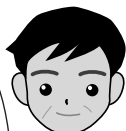


今泉町在住 市職OB

◆コツコツがんばる努力家

あきらめることが大嫌いです。課題の多い困難な事項も決してあきらめず信念をもって取り組んできました。

日向野市長とは、市長一期目の選挙からお付き合いをしています。日向野市長の「栃木市を良くするのは自分だ」という強い思いと、常に努力を怠らない姿にひかれずっと応援しています。決してスマートではなく、都会的ではありませんが、泥臭くても礼儀正しく、コツコツ努力する政治家日向野は魅力的です。これからの時代、こういうタイプの政治家が求められているのではないのでしょうか。



沼和田町在住 ひがの義幸後援会幹部

◆期待にこたえる親分肌

頼まれたことは真剣に聞き、答えを出します。頼られることを生きがいとする生来の政治家です。

こどもの教育のこと、学校との関係などで悩み、家庭内もばらばらになってしまいうな時がありました。そんな時に知人の紹介で初めて日向野市長にお会いし、悩みを聞いてもらいました。その時の真剣なまなざしと、その後の親身な対応が私たち家族を救ってくれたと感謝しています。いまでも日向野市長に会うと必ず「お子さんは元気ですか」と声を掛けてくれます。そんな日向野市長をいつも応援しています。



平柳町在住 主婦

ひがの義幸の経歴

- 生年月日 昭和33(1958)年6月18日
- 住 所 栃木市皆川城内町
- 日本大学短期大学部卒業

- 昭和62(1987)年 栃木市議会議員初当選(28才) (当時、全国最年少市議として当選)
- 平成11(1999)年 県議会議員に40歳で初当選
- 平成15(2003)年 栃木市長に44歳で初当選 (当時、県内最年少市長として当選)
- 平成19(2007)年 栃木市長2期目再選